

緑内障診療における

構造と機能の

観察

ランチョンセミナー 18

第8会場 東京国際フォーラム ホールD1

2025.4.18 (金) 12:45-13:45

本総会のランチョンセミナーは事前予約制です。

詳細は総会 HP をご確認ください。

※事前予約は参加登録マイページより可能です。

※事前予約をしていない場合は、当日整理券をご利用いただけます。



座長のことば

座長 福地 健郎 先生 (新潟大学)

超高齢化社会を迎えた我が国においては、緑内障患者のさらなる増加および高齢化が予想されています。我が国における中途失明原因の第一位である緑内障に対して、その進行を抑制し患者の生涯に亘って生活の質 (QOL: Quality Of Life) に必要な視機能の質 (QOV: Quality Of Vision) を十分に保つためには、早期発見、早期治療、管理が必要であると言うまでもありません。本セミナーでは、3人のエキスパートの先生より緑内障診断ツールに関する最新知見をお話して頂きます。まず、内藤先生にはこれまでの視野検査の抱える課題を解決すべく開発された両眼開放したまま検査可能な imo vifa の実臨床の活用方法を講演して頂きます。Ki Ho Park 先生は SS OCT Triton による網膜構造変化の評価と DL (Deep Learning) モデルによる強度近視における緑内障診断についてご講演して頂きます。最後に、赤木先生には、SSOCT 画像診断や臨床での構造機能の関係について概観し、ご講演して頂きます。本セミナーがご参加の先生方の明日からの日常診療の一助となれば幸いです。多くの先生方のご参加をお待ちしております。



演者

内藤 知子 先生

グレース眼科クリニック

演者

Prof. Ki Ho Park

Seoul National University

アイモ vifa 私の使い方

Prediction of glaucoma progression using OCT images

(同時通訳付)

演者

赤木 忠道 先生

新潟大学

緑内障の視力を守る